

無意識の世界観が利他的経済行動に与える影響

木村太郎 鈴木晴香 孫琴路 矢島満

要旨

「無意識の世界観が利他的経済行動に影響する」という仮説をたて研究を行った。アンケート調査を実施し回帰分析を行った結果、[西洋的思考]と、「近所の人」・「都市の人」に対する[ボランティア行動に費やす時間]との間に統計的に有意な関係がみられた。

しかし、[西洋的思考]と[独裁者ゲームにより測定される利他性]との間には有意な関係がみられなかった。

キーワード：利他的経済行動，ボランティア行動，独裁者ゲーム，西洋的思考

J E F

1. 序文

ヨーロッパ等では盛んに行われているボランティア行動が、現代の社会から必要とされていることは言うまでもなく、我が国においてもボランティア行動の重要性とその意義は多くの注目を集めつつある。2011年3月に発生した東日本大震災の後、大規模なボランティア行動や思いやり行動が生じたのは記憶に新しいが、一方でその動きに対しては「一時的なものであった」「世界と比較してみてもまだまだ十分活潑とはいえない」等の指摘も多くあったと言われる。これらの指摘が事実だとするならば、我が国にとってボランティア行動・思いやり行動は今以上に促進されるべきものである。本研究はボランティア行動を行う心理的動機づけの解明に関わるものであり、我が国におけるボランティア行動・思いやり行動の促進につながればと考えた。

本研究では学生を対象としたアンケート調査を実施し、利他性とボランティア行動に費やそうと思える時間を測ることにした。ここで言う利他性とは「主観的な、様々な関係の他者との心理的な距離感の事」であり、ボランティア行動とは「他者の身体的・心理的幸福を配慮し、ある程度の出費を覚悟して、自由意志から他者に恩恵を与える為の行動の事」と定義する。

2. 研究方法

本研究では、独裁者ゲームにより測定される利他性][ボランティア行動に費やす時間][東洋的思考・西洋的思考]に関するアンケート¹の調査結果を回帰分析することで、「東洋的・西洋的世界観が利他的行動に影響を与える」のかを検証した。アンケート対象は特に限定せず、紙媒体及び SNS

を利用して 38 名からデータを集めた。

Q1 と Q2 では[ボランティア行動に費やす時間]を測定した。この際、ボランティア行動の提供先として親友・近所の人・同じ都市の人・同じ国の人・外国の人を挙げ、様々な距離の対象に対して時間に関する利他性を測定する為の設問を作成したが、「親友」に関しては「ボランティア行動」という表現の解釈が難しい為、Q1 とは別に Q2 という設問を作成した。Q3 では[独裁者ゲームにより測定される利他性]を測定した。ここでも様々な距離の対象に対し、金銭に関する利他性を測定する為の設問を作成した。

Q4² と Q5³ では回答者が[東洋的思考・西洋的思考]のどちらに該当するかを測定した。Q4 では「A と B」と答えた場合は東洋的な関係性を重視する世界観、「A と C」と答えた場合は西洋的なカテゴリーを重視する世界観を持つものとした。Q5 では「C」以外の回答の場合は東洋的世界観、「C」と答えた場合は西洋的世界観を持つものとした。

アンケートで得られた結果を元に、Q4, Q5 を説明変数、Q1, Q2 及び Q3 を被説明変数としてそれぞれ単回帰分析を行った。

1 付録を参照

2 Q4 は Nisbett[2004]より引用

3 Q5 は】大阪大学「くらしの好みと満足度についてのアンケート」2012 年 A 17 より引用

3. 研究結果と考察

今回のアンケート調査の結果を単回帰分析したものが以下の表 1 である。Q4・Q5 の質問に関してはダミー変数を用い、両変数ともに[東洋的な関係性を重視する世界観]を 0、[西洋的なカテゴリーを重視する世界観]を 1 と置いた。Q4・Q5 の世界観の質問が、Q1・Q2 の[ボランティア活動に費やす時間]と Q3 の[独裁者ゲームにより測定された利他性]の変数に与える影響を調べるために単回帰分析を行ったところ、以下の表 2 の結果が得られた。

表 1：単回帰分析で有意に出た結果¹

	係数	P 値
近所の人	4.236842	0.100*
都市の人	4.143275	0.066*

1 * = 10% 有意水準で有意。

以上の結果から、

① [西洋的思考]と、「近所の人」・「都市の人」に対する[ボランティア行動に費やす時間]との間に統計的に有意な関係がみられる。

という整合的で有意な結果が得られたと同時に、

② [西洋的思考]と[独裁者ゲームにより測定される利他性]との間には有意な関係がみられない。

という結果となった。

まず結果①について見ていく。①の結果において、[西洋的思考(カテゴリーを重視する世界観)]の変数との有意性が「近所の人・都市の人」が対象になっているケースのみにみられた原因として、その他の項目では、対象としてどのような人を想像するかなどの利他性以外の様々なバイアスがかかっているからであると考えられる²。

そして、①と②の結果を比較すると、独裁者ゲームによって測った利他性と違い「ボランティア行動」には純粋な利他性以外の「西洋的思考」の変数が与える影響があることがわかる。それではなぜ、西洋的思考とボランティア行動の間に有意な結果がみられ、独裁者ゲームを用いて測った利他性との間には有意な結果がみられなかったのだろうか。1つ目に考えられる理由として、そもそもボランティアというものが、何者かによって強制されるものではなく、自主的・自発的に行われるもの³であるからではないかと考える。すなわち、自発性を伴わない奉仕活動のような利他行動とは違い、主体性を重んじるボランティア文化は個人主義的な西洋的思考によって生まれたものであるのではないだろうか。2つ目として、この両被説明変数が「時間」と「金銭」という異なる指標を用いている事に起因している可能性が考えられる。金銭は時間よりも客観性の強い指標であるため、無意識の世界観が意思決定に与える度合いが比較的少ない。一方で時間はより感覚的な指標で、人によってその価値に大きな差異があるため、金銭で測った時に比べて無意識の世界観の影響が強くと推察される。今後、この2点に関する考察を深めていく必要がある。

4. まとめ

本研究は「無意識の世界観が利他的経済行動に影響する」という仮説をもとに進められた。アンケート調査を行いボランティア行動については研究仮説に整合的で有意な結果が得られたが、しかし独裁者ゲームについてはそうではなかった。

ボランティア活動と金銭分配、どちらも同じ利他行動でありながら両者で

² 現に質問の回答者から「一概に外国の人といってもその出身の国によって印象も変わるだろう。質問が曖昧すぎて答えにくい。」という声も聞かれた。

³ “volunteer”という単語に、「自発的な」という意味も含まれていることから窺える。

違った結果が出たことは意外な結果である。要因としてやはり「時間」と「金銭」という指標の違いが大きく影響したのであろう。考察では二つの指標で客観性の強さの違いが影響を与えたのではと指摘している。またその他の要因として、その人の持つ価値感覚の違いも関係していると思われる。何に対してより価値を見出すか、何なら犠牲にしてもいいのか、それはその人の持つ世界観によって変わってくる。西洋的思考を持ち自発的にボランティアをしようとする人物でも、金銭を重視するような世界観も持ち合わせているのなら募金のような利他行動はしたがる。利他行動と一口にいてもその内容は様々だ。金銭の支払いを要するもの、時間を要するもの、肉体労働など、利他行動を内容ごとに細かく分類したうえで、それぞれの世界観との関係を調査していくことが必要である。

付録

研究課題のためのアンケートです。是非ご協力よろしくお願い致します。

慶應義塾大学経済学部 大垣昌夫研究会

男性・女性

Q1.

あなたは自由に過ごせる1週間の休暇を得ました。町内ではその週に A のためへのボランティアが企画されています。あなたならどれくらいの時間をボランティアに費やせますか？（なお、そのボランティアにかかるコストは、作業の時間だけとします。）

A に入る言葉が…	" 近所の人 " なら : 時間
	" あなたの住む都市の人 " なら : 時間
	" あなたの住む国の人 " なら : 時間
	" 外国の人 " なら : 時間

Q2.

あなたは自由に過ごせる1週間の休暇を得ました。今、親友が引越しや宿題などで手助けを必要としているようです。このときあなたなら親友の為にどれ位時間を費やせますか？

_____時間

Q3.

あなたは1000円を渡されました。あなたはその1000円のうち[自分の取り分][別室にいる A の取り分]を自由に決められます。

この時、あなたなら A の取り分をいくらにしますか？0円～1000円の範囲内でお答えください。

なお、A の所得水準はあなたと同じくらいで、A にはあなたが取り分を決めた事は伝わりません。

A に入る言葉が…	" 親友 " なら : 円
	" 近所の人 " なら : 円
	" あなたの住む都市の人 " なら : 円
	" あなたの住む国の人 " なら : 円
	" 外国の人 " なら :

	円
--	---

Q4.

A. 猿 B. バナナ C. 猫

どの2つがより近い関係にあると思いますか？

_____と

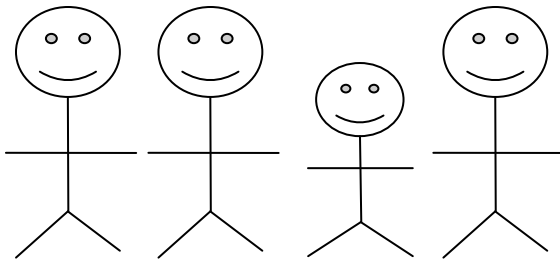
Q5.

A

B

C

D



仲間はずれはどれだと思いますか？

ご協力ありがとうございました！

5. 引用文献

リチャード・E・ニスベット（村本由紀子訳）、2004、木を見る西洋人 森を見る東洋人－思考の違いはいかにして生まれるか、ダイヤモンド社。
大垣昌夫・田中沙織、2014、行動経済学入門、有斐閣、東京。